

発達障害者支援アセスメントツール研究会 今後の取り組み方針(案)

1 基本的な考え方

- ・ 発達障害者支援アセスメントツール研究会については、平成30年度末を目途に立ち上げ予定の（仮称）北九州市発達障害者支援地域協議会に統合し、平成31年度も引き続き活動する。
- ・ （仮称）地域協議会では、研究会の議論を踏襲し、MSPA（発達障害の要支援度評価尺度）を活用した特性評価と多職種による支援の仕組みについて研究を進める。

2 取り組みの目標

- ・ 発達障害の特性評価に係る「共通の仕組み」の確立
⇒ 発達障害児者の支援に携わる市内の関係者・関係機関等が、共通のアセスメントツールを用いて基本特性の評価を行い、その結果を多職種の支援者が共有することで支援の質の向上を図り、次のライフステージへ円滑に引き継がれる仕組みを構築する。

3 MSPA活用に係る主な検討課題

※ 当研究会および（仮称）地域協議会において研究を進めるもの

（1）MSPA評価の方法

- ・ ライフステージごとの評価実施方法（いつ、どこで、誰が、どのように行うか）
- ・ MSPA評価への「つなぎ方」（対象者の抽出、受診勧奨の方法）

（2）評価結果の活用方法

- ・ 評価結果の伝え方（いつ、どこで、誰が、誰に対し、どのように行うか）
- ・ 生活上の支援への反映（評価結果をどのように共有し、生活上の支援に活用するか）
※ 生活上の支援 = 家庭での子育て、保育・教育・就労、自立生活など
- ・ より専門的な支援への「つなぎ方」、他のアセスメントとの併用

（3）評価・支援体制の構築

- ・ 評価者の確保・育成、関係機関との役割分担（既存の相談・支援システムとの整合）
- ・ 支援の内容と質の向上（評価結果を踏まえた支援のスキルアップ、成果の普及啓発）
- ・ 評価結果の情報管理・共有（評価結果の管理、ライフステージごとの情報のつなぎ方）

4 今後の予定(案)

- ・ 平成31年2月14日(木) … 事例検討会(拡大会議) 開催
- ・ 平成31年3月下旬(予定) … 第4回研究会 開催(事例検討会まとめ・地域協議会設置等)
- ・ 平成31年度以降 … 地域協議会 開催
(MSPAの有効性、活用策等の研究、発達障害児者支援システムについての議論等)

5 主な意見(第1回検討会 議事録より抜粋)

(1) MSPA評価の方法

- ・ 専門性と使いやすさのどちらを優先すべきかを考えたとき、共通言語であることの方が、本人たちの支援を考える上で優先度が高いと思う。〔シャルマ〕
- ・ 他の機関との連携のため、アセスメントツールは誰でも分かるものにする必要がある。〔天本〕
- ・ MSPAはレーダーチャートを見ることで、一目で発達特性が理解できる。また、評価を行う中で、「どの程度困っているか」という困りの程度を見取ることができる。〔友納〕
- ・ まだMSPAを使ったケースが少ないが、IQ60や50だとつけにくい。〔友納〕
- ・ IQが高いが故に理解されにくい人を対象に使うと有効なのではないかと感じる。〔有門〕
- ・ MSPAのいいところは、必ず本人と面接するところ。他のツールは、面接する親や教員の主観を基に付けている。〔傍聴者・医師〕

(2) 評価結果の活用方法

- ・ 医師は診断のため、生活に携わる職種の方は支援のためと、職種によってアセスメントに求めるものは異なる。〔長森〕
- ・ 教育相談の情報を学校に返しているが、どこまで学校生活に活かせるかは疑問。教育相談の1対1の場面での子どもの姿と、学校の集団生活の中では、子どもの見せる姿は違う。〔中禮〕
- ・ MSPAは学校の先生に事前アンケートを書きただけのことが利点。家族のアンケートと学校のアンケートを比較することで、家と学校での違いが分かり参考になる。〔友納〕
- ・ PARSの場合はコピーができず、アセスメント結果を学校にどう伝えればよいのか困った。受診者全員には手紙は書けない。保護者に口頭で結果を伝えても、学校まで情報が届かない。〔友納〕
- ・ MSPAはチャートをコピーして関係機関に渡せる。何枚でもコピーができるため、広く連携に使える。保護者は診断目的で来られるので、情報の共有を拒否された方はいない。〔友納〕

(3) 評価・支援体制の構築

- ・ 発達障害のある人は、いずれかの段階でアセスメントを受けているはずだが、それが後の支援に活かされていない状況なのではないか。〔長森〕
- ・ MSPAの判定を行うには定められた研修を受講し、評価のための技術が必要となる。心理士、医師、特別支援学校の教員など、発達障害の知識を持つ人が評定者である場合が多い。〔有門〕
- ・ MSPAの評価者は医師ではなく、それ以外の支援に関わる人にしないと、将来、上手く活用していくことは難しいのではないか。〔天本〕
- ・ MSPA講習会は希望者が多く、なかなか受講できない。MSPAをつけることができる人を増やしていくことが困難な状況の中で、運用に繋げていくことは難しいと思う。〔長森〕
- ・ MSPAで全てが分かる訳ではない。MSPAは支援開始の入口であって、それぞれの専門職が必要なツールを重ねて使った上で、総合的に支援のプログラムを組み立てていくべき。〔有門〕
- ・ 総合療育センターは発達障害への対応で非常に多忙な状況となっており、人事面も含めて、地域ニーズへの対応が非常に遅れている。〔長森〕

発達障害児者のライフステージを通じた支援のイメージ・試案（MSPA活用）

